第27回 日本臨床微生物学会総会・学術集会
共催セミナー４

「細菌検査の基礎」

～同定から薬剤感受性、耐性菌検出まで、微生物検査担当者が知っておくべき基礎的事項～

2016年
1月29日 金 18:30–19:45

江陽グランドホテル ４階【真珠の間】 宮城県仙台市青葉区本町2丁目3-1

座長

村瀬 光春　先生

元愛媛大学医学部附属病院　診療支援部長

演者

佐藤 智明　先生

東京大学医学部附属病院
感染制御部　細菌検査室　副技師長

【本セミナーは整理券制です】
配布日時：2016年1月29日（金）12:00より
配布場所：ナイトセミナー整理券配布所（仙台国際センター展示棟）
※注意事項：整理券はセミナー開始5分後に無効となります。

共催　第27回日本臨床微生物学会総会・学術集会　／　極東製薬工業株式会社

NS1512

抄録

微生物検査は感染症の診断・治療に不可欠な検査であり、感染症起因菌を検出し、正確かつ迅速な同定、薬剤感受性結果を臨床に報告することが微生物検査室の役割である。近年の同定検査は、同定キットや自動細菌検査装置（自動機器）の普及により非常に簡単に菌名が得られるようになった。しかし、それ以前の同定検査は分離培地上のコロニー所見やTSI寒天培地など数種類の確認培地から得られる菌の鑑別性状により同定を行うため、菌の性状についての知識が必要であった。同定キットは各生化学性状の“＋”、“－”の判定結果から得られる菌コードにより菌名を決定する方法で、菌の性状について多くの知識は必要としない。更に自動機器や質量分析装置による同定検査は自動的に同定菌名が出力されるため、菌の性状についての知識がほとんどなくても同定菌名を得ることが可能となった。しかし、菌についての基本的性状を知った上で同定キットや自動機器を使用しないと、得られた結果が誤っていた場合でも疑うことなく報告してしまう可能性がある。同定キットや自動機器による同定検査結果は必ず確認することが必要であり、このため担当技師には細菌検査の基礎知識が必要となる。薬剤感受性検査もディスク法で実施する施設は減少し、同定検査と同様に自動機器によりMIC測定を実施する施設が大半を占めるようになった。薬剤感受性検査においても自動機器からMIC値、カテゴリー判定値が自動的に出力されるが、薬剤感受性結果は同定菌名と総合的に判定することが重要である。例としては*S. maltophilia*のカルバペネム系薬が感性の場合は同定もしくは薬剤感受性検査のいずれかが誤っている可能性があり確認が必要となる。厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業（JANIS）においてもこのような結果が散見され、当該施設の検査体制の再確認の必要性を感じる。また、近年は薬剤耐性菌による感染症や病院感染が大きな問題となっており、薬剤耐性菌を確実に検出、判定することは微生物検査室の重要な役割である。薬剤耐性菌の判定はMRSAやVREのようにMIC値から判定できる耐性菌とESBLやMBLのようにMIC値のみでは判定できない耐性菌がある。特に後者の耐性菌は薬剤感受性成績から耐性菌の可能性を疑い確認試験が必要となるため、担当者の薬剤耐性菌についての知識が必要となる。今回のセミナーでは同定から薬剤感受性、耐性菌検出までの基礎知識についてまとめてみたい。特に耐性菌についてはCTX-M、IMP-1などのまるで異国語のような耐性遺伝子には極力触れずに微生物検査初心者が理解できる言語で説明を試みたい。

【会場アクセス】
JR仙台駅から徒歩5分
地下鉄南北線「広瀬通駅」西１出口前

【仙台国際センターからのアクセス】
所要時間：約20分（乗継ぎ1回）
地下鉄東西線「国際センター駅」→ 「仙台駅」
地下鉄南北線「仙台駅」→ 「広瀬通駅」西１出口前

仙台国際センター展示棟にて企業展示も行っております。
ぜひお立ち寄り下さい！